



中小機構(正式名称:中小企業基盤整備機構)は経済産業省所管の独立行政法人で、
中小企業施策の総合的な実施機関としての役割を果たしています。

【主催】独立行政法人中小企業基盤整備機構 創業・ベンチャー支援部 創業・ベンチャー支援課
【運営事務局】JVA2020運営事務局 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-10 ADEXビル6F TEL 03-3292-5088 E-mail jva2020@operation-desk.jp



JAPAN VENTURE AWARDS 2020

2020.2.25 Tue.

【開演】13:15~〈表彰式 15:35~〉

【会場】虎ノ門ヒルズフォーラム 5F

JVA2020 レポート

時代を塗り替える 起業家、発表

Japan Venture Awardsは、
革新的かつ潜在成長力の高い事業や、
社会的課題の解決に資する事業を行う、
志の高いベンチャー企業の経営者を称える表彰制度です。
2000年以来、300名のベンチャー経営者等が受賞し、
それぞれの事業とともに、
日本を支えるリーダーへと成長を遂げています。
次なる日本のリーダーとして果敢に挑戦する起業家を、
ロールモデルとして広く紹介することで、
創業機運を高め、日本における創業の促進を図ります。

JAPAN
VENTURE
AWARDS
2020



▶ 応募対象

創業後概ね15年以内※1であり、高い志を持ち、自立する中小企業など※2の経営者又は代表者。

※1 社歴に関わらず、経営の多角化や事業転換により、新事業展開した場合を含む。
 ※2 企業を主な対象といたしますが、NPO法人、LLC(合同会社)などの応募も可能とします。

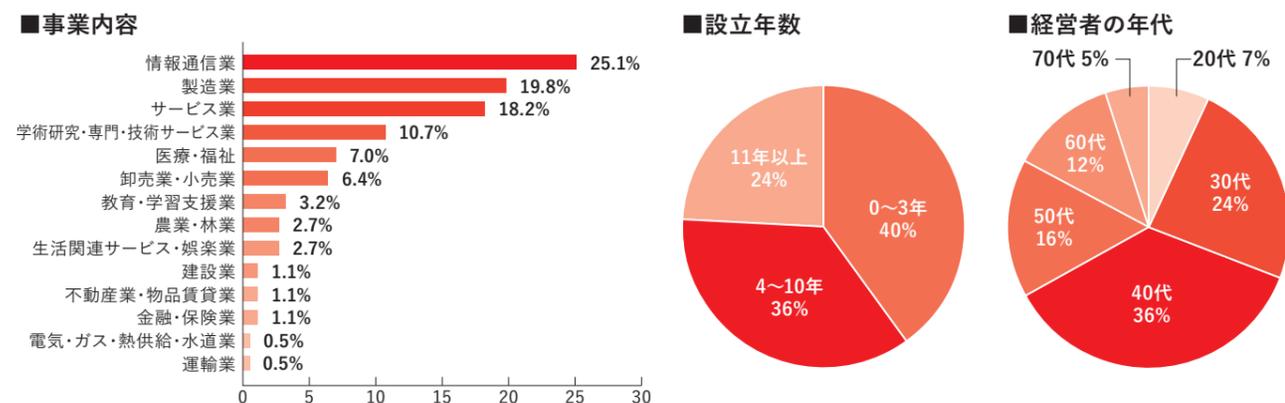
▶ 中小企業について

募集対象とする中小企業などは、下記のいずれかに該当する個人事業主、法人又はそれらによって構成される組織とし、活動主体が国内にあるものとします。(中小企業基本法より)

- 製造業その他 …… 資本金3億円以下、又は常時使用する従業員が300人以下
- 卸売業 …… 資本金1億円以下、又は常時使用する従業員が100人以下
- 小売業 …… 資本金5千万円以下、又は常時使用する従業員が50人以下
- サービス業 …… 資本金5千万円以下、又は常時使用する従業員が100人以下

▶ JVA2020応募状況

創業間もないベンチャーから、第2創業に取り組む中小企業まで、幅広い業種・社歴の経営者から応募いただいています。年代層も20～70代まで幅広く、多様性に富んだベンチャー経営者の発掘につながっています。



▶ 審査基準

革新性、成長性、経営者の資質、社会性について審査を行います。

▶ 審査員

有識者で構成されたJVA2020審査委員会で審査します。

JVA2020審査委員会(敬称略・順不同)

- 東出 浩教 早稲田大学大学院経営管理研究科(早稲田大学ビジネススクール)教授 / 日本ベンチャー学会 理事
- 小野 由理 株式会社三菱総合研究所 研究開発部門統括室長
- 高乗 正行 株式会社チップワンストップ 代表取締役社長
- 中野 慎三 一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 会長
- 平尾 孝憲 国立研究開発法人科学技術振興機構 産学共同開発部長
- 吉田 剛 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部長

ベンチャーキャピタリスト奨励賞

▶ 応募対象

現在、ベンチャー企業に対して支援を行っており、今後も継続して活動するベンチャーキャピタリスト。

▶ 審査基準

これまでのベンチャー企業に対する支援活動内容・実績、イノベーション・社会への貢献度について審査します。

▶ 審査員(敬称略・順不同)

- 東出 浩教 早稲田大学大学院経営管理研究科(早稲田大学ビジネススクール)教授 / 日本ベンチャー学会 理事
- 赤浦 徹 一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 会長
- 市川 隆治 一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター 理事長
- 高乗 正行 株式会社チップワンストップ 代表取締役社長

経済産業大臣賞

事業内容、活動実績、経営者の資質や社会的な評価(貢献度)などを総合的に評価の上、他の企業の模範として相応しい極めて優秀な経営者。

科学技術政策担当大臣賞

社会的な課題の解決に向けて、革新性に優れた科学技術等を基に、将来の社会や産業にイノベーションを起こす可能性を持つ、他の企業の模範として相応しい極めて優秀な経営者。

中小企業庁長官賞

事業内容、活動実績、経営者の資質などを総合的に評価して特に優秀な経営者。

中小機構理事長賞

優秀な事例のうち、公的支援策などを有効活用した模範的な事例となる経営者。

JVA審査委員会特別賞

上記以外で、事業その他の特徴と経営者を総合的に評価して、テーマ別に特別表彰を行う。

ベンチャーキャピタリスト奨励賞

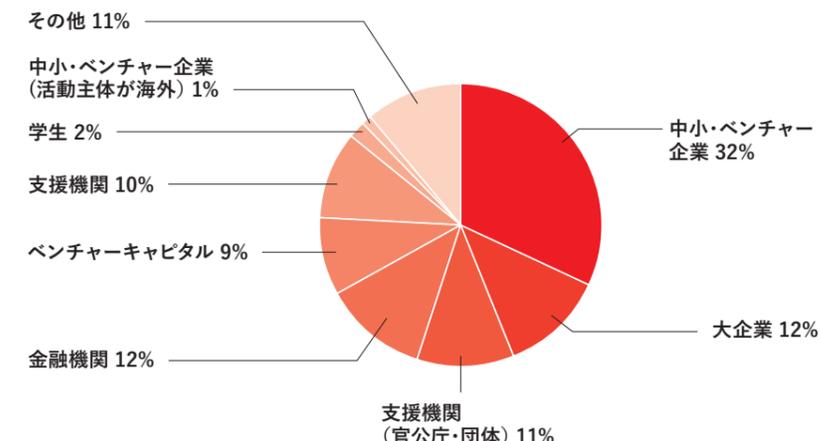
活動内容、活動実績、イノベーションへの貢献度、社会への貢献度等を総合的に評価の上、今後の活躍が期待されるベンチャーキャピタリスト(事業会社の投資担当者を含む)。

JVCA特別奨励賞

応募者(ノミネーターを除く)の中で、創業後5年以内の将来更なる活躍が期待される経営者。

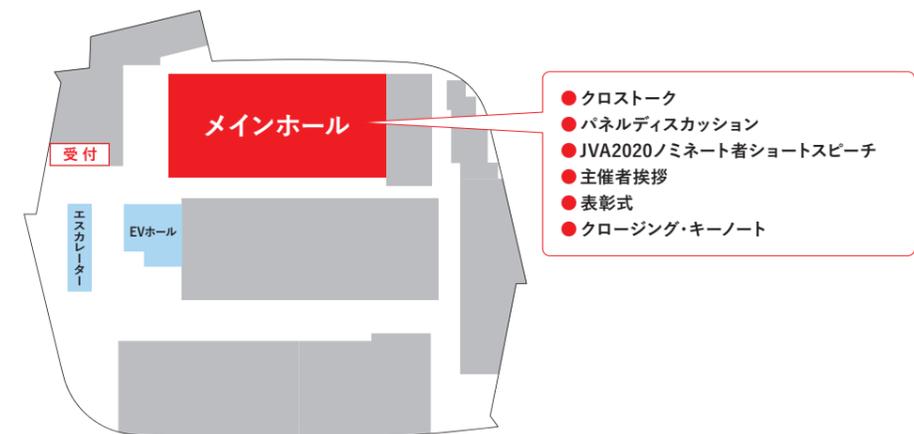
来場者属性

表彰式当日は、ベンチャー経営者、大手企業、支援・金融機関など、ベンチャー企業に関心の高い様々なジャンルの方が集まり、出会いの場となっています。



会場案内図

虎ノ門ヒルズフォーラム 5F



13:15~13:45

クロストーク

2020年 ~メルカリ流 倍速経営の組織づくり~

2020年、東京オリンピックイヤーにふさわしく、日本のベンチャー企業がグローバルに存在感を示していくために、必要なものは何か？日本初のユニコーンであるメルカリ会長の小泉氏と日経ビジネス副編集長の原氏をお迎えして、対談形式でトークを展開。

▶株式会社メルカリ
取締役President(会長) 小泉 文明 氏

▶株式会社日経BP
日経ビジネス副編集長 原 隆 氏



13:45~14:30

パネルディスカッション

次世代を代表するベンチャー企業を創出するために、ベンチャーキャピタリストに求められる役割とは？

JVA2019ベンチャーキャピタリスト奨励賞受賞者で、メルカリへの投資実績を持つ手嶋氏、ラクスルへの投資実績を持つ野内氏の2名をパネリストに迎え、次世代を代表するベンチャー企業を創出するために、ベンチャーキャピタリストが担う役割等をテーマにお話を頂戴しました。

▶XTech Ventures
共同創業者兼ジェネラルパートナー 手嶋 浩己 氏

▶株式会社オプトベンチャーズ
代表取締役 野内 敦 氏

▶Forbes JAPAN
副編集長 兼 チーフコミュニケーションディレクター 谷本 有香 氏

モデレーター



14:30~15:20

JVA2020 受賞候補者ショートスピーチ

JVA2020ノミネート者10名が登壇、自社PR・プレゼンテーションを行いました。



15:30~15:35

主催者挨拶 独立行政法人中小企業基盤整備機構 理事長 豊永 厚志

JVA開始20年目を記念し、新たに「科学技術政策担当大臣賞」と「JVCA特別奨励賞」の2つの賞が加わった。応募者全体のレベルは年々上がっており、過去最多となる応募があった。また、JVAに加え、中小機構のベンチャー支援事業への功労者に感謝状を贈呈する機会を今回設けた。JVAから、素晴らしいアイデア、技術を持った企業の経営者が、一人でも多く輩出されることを心より祈念している。



15:35~16:30

ベンチャー支援事業功労感謝状贈呈

表彰式

(プレゼンター)

- 経済産業大臣賞 経済産業副大臣 松本 洋平 氏
- 科学技術政策担当大臣賞 内閣府科学技術政策担当大臣 竹本 直一 氏
- 中小企業庁長官賞 中小企業庁 中小企業政策統括調整官 入野 泰一 氏
- 中小機構理事長賞 独立行政法人中小企業基盤整備機構 理事長 豊永 厚志 氏
- JVA審査委員会特別賞 JVA2020審査委員会委員長 東出 浩教 氏
- ベンチャーキャピタリスト奨励賞 独立行政法人中小企業基盤整備機構 理事長 豊永 厚志 氏
- JVCA特別奨励賞 一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 会長 中野 慎三 氏



来賓祝辞

内閣府科学技術政策担当大臣 竹本 直一 氏

政府では、スタートアップ・エコシステムの拠点形成、日本版SBIRの制度見直し、「研究力強化・若手研究者支援 総合パッケージ」の公表等を行っている中、今般、若手研究者の研究成果や研究開発型ベンチャー経営者を称える「科学技術政策担当大臣賞」を新設することになった。本表彰の受賞をきっかけに、研究開発の成果が広く世の中に知れ渡り、より良い社会が構築されることを期待している。



経済産業副大臣 松本 洋平 氏

政府では、開業率を欧米諸国並みの10%台にするという目標の実現に向けて、「市区町村が民間事業者と連携して行う創業支援の後押し」等を通じて、地域における創業の拡大、更には、「地域未来牽引企業」や「J-Startup企業」の選定といった集中的な支援を行っている。受賞者の皆様が、「地域を代表する企業」或いは「日本を代表するベンチャー企業」として活躍されることを期待している。



受賞スピーチ

▶Varinos株式会社 代表取締役 桜庭 喜行 氏

「このような素晴らしい賞をいただきありがとうございます。この会社はまだまだですが、ここまで来られたのは、社員一同頑張って、何より沢山の方のご支援があったおかげです。これからも日本のゲノム医療を盛り上げていきたいと思っております。」とスピーチされました。



▶株式会社アストロスケールホールディングス 創業者兼CEO 岡田 光信 氏

「創業者というのは、いつも終わりがありません。ですので、まだ過程なのですが、我々の取り組みをご認識いただいて賞をいただけるというのは、励みになり、本当に嬉しいです。我々がやろうとしている宇宙環境の改善というのは、とても私一人ではできません。社内の者ともこの喜びを分かち合いたいと思います。」とスピーチされました。



審査講評 JVA2020 審査委員会委員長 東出 浩教 氏

「様々なビジネスを、これまでの経営者の方々の歴史も含めて、審査してまいりました。皆さん、お客様に対して、どういう価値を届けていくのかということに知恵を絞って活躍されています。日本発の、生まれながらにグローバルな『ポーングローバル』な企業として、世界に価値を届けていける会社・経営者になっていてもらいたいと思っております。」と講評されました。

16:30~17:15

クロージング・キーノート

石灰石を主原料にした紙やプラスチックに代わる新素材「LIMEX」の可能性

「LIMEXは、水や石油などの資源をなるべく使わず、紙やプラスチックの代替品となる石灰石を原料とした新素材です。技術・仕組み・価値観を強みに、エコロジーとエコノミーを両立する日本発のサステナビリティのトッププレイヤーになるべく、チャレンジしていきます。」と語りました。

▶株式会社TBM 代表取締役 CEO 山崎 敦義 氏



受賞者

JAPAN
VENTURE
AWARDS
2020



JVA2020 受賞者



経済産業大臣賞

桜庭 喜行 氏

Varinos株式会社
代表取締役



科学技術政策担当大臣賞

岡田 光信 氏

株式会社アストロスケール
ホールディングス
創業者兼CEO



中小企業庁長官賞

東 志保 氏

株式会社Lily MedTech
代表取締役



中小企業庁長官賞

今林 広樹 氏

EAGLYS株式会社
代表取締役社長



中小機構理事長賞

藤原 健真 氏

株式会社HACARUS
代表取締役CEO



中小機構理事長賞

古川 卓司 氏

株式会社ビードットメディカル
代表取締役社長



JVA審査委員会特別賞

今西 良光 氏

株式会社Emotion Tech
代表取締役



JVA審査委員会特別賞

角田 望 氏

株式会社LegalForce
代表取締役CEO

ベンチャーキャピタリスト奨励賞



小沼 晴義 氏

株式会社ジャフコ
プリンシパル



三澤 宏之 氏

みやこキャピタル株式会社
取締役 パートナー



Yoshiyuki Sakuraba

桜庭 喜行

Varinos株式会社
代表取締役

経済産業
大臣賞

【会社所在地】〒141-0022 東京都品川区東五反田5丁目23-1

【事業紹介】DNA解析技術を活用したゲノム検査を開発し、臨床検査サービスとして全国の医療機関に提供。子宮内の細菌バランスを調べる子宮内フローラ検査を世界で初めて実用化した。



【PROFILE】

1972年生まれ
埼玉大学大学院 博士後期課程修了 博士(理学)取得
2001年 理化学研究所ゲノム科学総合研究センター 研究員
2008年 米国セントジュード小児病院 研究員
2011年 GeneTech株式会社 検査技術部長
2014年 イルミナ株式会社 エクセグティブクリニカルセールススペシャリスト
2017年 Varinos株式会社創立 代表取締役(現任)

【創業年】2017年

遺伝子検査・ゲノム医療の実現が世界的に遅れをとっている日本において、きちんとしたサイエンスに基づく遺伝子検査を社会に普及させ、社会的課題となっている不妊治療に革新を起こすことを目指しています。

【座右の銘】JUST DO IT!

日本でもゲノムテクノロジーを 自社開発できる

ゲノム臨床検査会社を目指す

前職のイルミナ社では、次世代シーケンサーの技術を医療応用する市場の開発に携わりました。欧米をはじめ、中国や韓国でも新規のゲノム検査会社が次々と誕生してゆくのを見ながら、日本だけが遅れてゆく状況を一体どうしたら食い止めることができるのだろうか?と悩んでいました。そんな中、社内で同じ悩みを抱える長井と共に、自分たちでゲノム検査会社を作るしかないという結論に至り、Varinos株式会社を創立しました。



▲検査に使用している次世代シーケンサー



▲子宮内フローラ検査 報告書の一例

▲ 会社の特徴

スピーディーに 最新の技術を市場に提供します

非常に速いスピード感で事業を進めて参りました。高品質な検査を開発・提供するための人材の確保にもこだわって取り組んでいます。NGS解析の実務経験が豊富なエキスパートを多数雇用することができており、情報解析のためのバイオインフォマティクシヤンや、情報解析とウェット解析の両方ともできる人材も確保して、国内の会社ではほとんど出来ていない、独自のゲノム検査項目を開発できる体制を整えています。

▲ 事業・サービスの強み

ゲノム検査で 生殖医療に革命を

弊社の「子宮内フローラ検査」は、これまで技術的に解析が困難であった子宮内の細菌バランスを高感度に検出することが可能であり、不妊治療・産婦人科医療においてまったく新しい市場を創出しています。弊社の検査の活用は不妊治療だけでなく、子宮内膜炎や子宮内膜炎、子宮頸癌、子宮体癌、早産の原因となる絨毛羊膜炎といった多岐にわたる大学の基礎研究にも利用されています。

受賞ポイント

社会問題にもなっている不妊治療への革新が期待される「子宮内フローラ検査」を世界に先駆けて実用化させた、桜庭氏の経営者としての手腕や、同氏の臨床検査サービスが、ゲノム医療の実現が欧米諸国に比べ遅れている日本において、遺伝子検査サービスを社会に普及させ、日本発の事業として、世界に向けて大きく成長する可能性がある点を高く評価。



Nobu Okada

岡田 光信

株式会社アストロスケールホールディングス
創業者兼CEO

科学技術
政策担当
大臣賞

【会社所在地】〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-16-4

【事業紹介】宇宙機の安全航行の確保を目指し、次世代へ持続可能な軌道を継承する為、スペースデブリ(宇宙ゴミ)除去サービスの開発に取り組む世界初の民間企業です。



【PROFILE】

1973年生まれ
米国バドュー大学クラナート MBA修了
大蔵省(現財務省)主計局勤務後、マッキンゼー・アンド・カンパニーにて経営コンサルティングに従事。IT業界等で創業者や経営者として活躍。高校一年時に、毛利衛宇宙飛行士より「宇宙は君達の活躍するところ」という手書きのメッセージをもらう。以来、宇宙への想いを胸に創業に至った。

【創業年】2013年5月4日

英国王立航空協会フェロー(FRAeS)、国際宇宙連盟(IAF)委員、世界経済フォーラム(ダボス会議)宇宙評議会共同議長等を兼務。バドュー大学150周年祭典では、卒業生起業家として「Burton D. Morgan Entrepreneurship Award」を受賞。Forbes JAPAN選出「日本の起業家ランキング2019」第1位、2020年には歴代殿堂入りを果たす。他、世界経済フォーラム(ダボス会議)テクノロジーバイオニア賞2017、ファストカンパニー社「世界でもっともInnovativeな会社Top10」、グッドデザイン賞2016、APEC Global Innovator Award(2015)等受賞。過去、ハーバード・ビジネススクールの教材として二回選出されたことも。著書に「愚直に、考え抜く。」

【座右の銘】言い訳せず、考え、実行する(実現)=(思考)×(実行)

「宇宙のロードサービス」を目指して

40代目前で中年の危機を経験。人生を振り返り、高校1年時に参加したNASAのスペースキャンプ宇宙飛行士訓練プログラムで、毛利衛宇宙飛行士から「宇宙は君達の活躍するところ」という手書きのメッセージを頂いたことを思い出しました。その後、各国で開催される宇宙の学会に参加し、気付いたスペースデブリ(宇宙ゴミ)の問題。シュミレーションやリサーチだけでなく、アクションプランが必要だと思い創業に至りました。

▲ 会社の特徴

宇宙機の安全航行の確保を目指して ～持続可能な宇宙環境～

2013年の創業以来、軌道上で増加し続けるデブリの低減・除去策として、宇宙機が故障や運用終了を迎えた際の除去(EOL サービス)や、既存デブリ除去(ADR サービス)の技術開発を進めています。技術・ビジネスモデル・法規制という複数課題を同時に解決すべく、本社・R&D拠点の日本をはじめ、シンガポール、英国、米国と4カ国100名超体制でグローバルに事業展開しています。

▲ 事業・サービスの強み

世界初! 宇宙の軌道上でデブリ除去の実証実験

2020年世界に先駆け、デブリ除去実証衛星「ELSA-d(エルサディー)」を打ち上げる。宇宙軌道上で、デブリへ接近・診断・回転を合わせた捕獲・軌道離脱を一連のミッションとして行う事は世界でも例がない。民間企業が数社数百~千機単位で人工衛星を打ち上げる「コンステレーション」の台頭により加速度的にデブリが発生すると言われる。当社EOLサービスにより、宇宙の持続可能性に寄与したいと考えている。



▲事業ミッションをあらわす絵



▲2020年打上げのELSA-d衛星

受賞ポイント

「世界一厄介な課題」と言われるスペースデブリ問題に対し、ビジネスで解決しようという岡田氏の発想は、ユニークかつ革新的なもの。技術開発、人材確保、資金調達、ビジネスモデルの構築等、課題解決に向かって、戦略的に実績を積み上げていく姿勢は、ロールモデルとして高く評価され、今後、我が国が世界を主導していく分野として活躍が大いに期待される。



Shiho Azuma

東 志保

株式会社Lily MedTech
代表取締役

中小企業庁
長官賞

【会社所在地】〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学アントレプレナープラザ701

【事業紹介】乳がん検診率の向上と早期発見への貢献を目指し、リング型の超音波振動子を使用した乳房の3Dスキャンが可能な、被ばくや痛みのない女性に優しい乳房用画像診断装置の開発。



【PROFILE】

1982年生まれ
アリゾナ州立大学 航空宇宙工学科修士課程修了
株式会社JEOL RESONANCE
2015年 東大の超音波CTプロジェクトに参画
2016年 株式会社Lily MedTech創業 代表取締役就任

【創業年】2016年

アリゾナ州立大学の航空宇宙工学科修士卒。帰国後JAXAで電機エンジンの研究に従事し、株式会社JEOL RESONANCEにて、核磁気共鳴装置の開発に従事。2015年に東大プロジェクトに参画し、翌2016年に株式会社Lily MedTech 創業。

【座右の銘】 考えは言葉となり、言葉は行動となり、
行動は習慣となり、習慣は人格となり、
人格は運命となる。

会社の特徴

「乳がん」と闘う この言葉のない世界を目指して

JST、NEDO、AMED、東京都など、多数の公的機関等からご支援を頂きながら開発に邁進しています。2019年にはJ-startup企業に選定されました。また、新日本EY、Plug and Play、Forbes Japanなどからの受賞歴や、日経新聞等への掲載歴も豊富で、Milken Conference Asiaをはじめとするイベントに登壇するなど、国内外から応援していただいています。



▲ミルケン・カンファレンス・アジアに登壇

事業・サービスの強み

痛みや被ばくのない乳がん用画像診断装置を提供し 世界の女性達に貢献します。

超音波を送受信するプローブを円環状に並べ、上下に移動しながら撮像することで、乳房全体の3D画像を取得します。ベッドにうつ伏せになり、お湯が入った水槽に片胸を入れるだけで撮像が可能です。非接触のため直接胸に触られることなく、圧迫による痛みもありません。自動なので操作者の技術に依存せず、また、超音波なので被ばくはなく、高濃度乳房の方でも感度が下がりにくいです。将来はAIによる診断支援機能も搭載します。



▲開発中の装置イメージ(薬事未承認)

受賞ポイント

大学発技術を乳がん検診に応用するイノベティブな発想で、従来の課題を解決し、乳がんの早期発見、患者のQOL向上に寄与する取り組みは社会的意義が大きく、東氏の事業化にかける思い、リーダーシップなど経営者の資質を高く評価。



Hiroki Imabayashi

今林 広樹

EAGLYS株式会社
代表取締役社長

中小企業庁
長官賞

【会社所在地】〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目55-14 内海ビル 301

【事業紹介】企業のデータ活用を促進するため、データを暗号化した状態で流通から集積・データ解析・AI処理まで実施できる秘密集積・秘密計算プラットフォームの研究開発・提供を行う。



【PROFILE】

1992年生まれ
早稲田大学 大学院修士課程卒(情報理工・情報通信専攻)
早稲田大学 助手(リサーチ・アシスタント)

【創業年】2016年

2017年、早稲田大学大学院・本専攻賞を受賞、博士課程に飛び級進学。同年、日経新聞の朝刊一面にて「AIモンスター」として紹介される。2018年4月、アリババ元会長ジャック・マー氏と早稲田大学にて対談し全世界に配信。同年10月、GQ日本版15th「Millennials Catalogue」にて、ミレニアル世代のヒーローとして紹介。日本最大級プログラム「未来2019」、世界各国からスタートアップが集まる「ICT SPRING Europe2019」等にて最優秀賞を複数受賞。

【座右の銘】「心を高める」「先義後利」

AIを生かした人間性ある社会を、 データセキュリティーで支える！

データサイエンティストとして働いていた際、極秘情報だからという理由でデータを出してもらえない経験をしました。セキュリティーは「データを守るだけ、コストがかかり、利便性は下がる」という捉え方が一般的でした。データを扱えないためにAI技術が生かされないのは社会損失だ、これではAI時代の幕開けはこないと感じました。「低コストで利便性高いデータ活用、攻めのセキュリティー」が時代を切り開くと確信し、創業を決意しました！

会社の特徴

秘密計算の世界トップランナー！ No.1、First1、Only1！

企業が機密ゆえに従来活用できずにいたプライベートなデータを安全に集積し、ときには企業間でお互いに見えない暗号化状態で安全に共有し、信頼性の高い新たな解析知見・価値を創出することを支援しています。Googleがオープンなデータなら、EAGLYSはプライベートなデータを整理する。秘密計算領域では、Only1戦略で、事業開発のバイオニアとなり、世界トップランナーのポジションを築くべく、邁進します！



▲グローバルで最優秀賞！

事業・サービスの強み

世界最高性能の追求と、 マーケットインの徹底！

暗号化したまま検索・統計値処理ができるセキュアDB、さらに機械学習できるセキュアAIがコア技術です。世界最難関の国際学会に採択された研究成果を独自開発のエンジンに実装。その演算処理は世界トップクラス性能を記録しています。また、金融・製造業・医療・マーケティング等の領域において、マーケット視点で設計・実装を行うことで、「使える」秘密計算技術の社会実装を進めております。



▲秘密計算プラットフォーム

受賞ポイント

組織が保有する様々な機密データをお互いに開示せず結合・分析することができる取り組みは、イノベーション創出の促進につながるもので、社会的意義が大きく、秘密計算が抱える課題に対しても高い技術優位性を持って、いち早く商用サービスを開始する等、今林氏の経営者の資質を高く評価。



Kenshin Fujiwara 藤原 健真

株式会社HACARUS
代表取締役CEO

中小機構
理事長賞

【会社所在地】〒604-8151 京都府京都市中京区橋弁慶町227 第12長谷ビル5階A室

【事業紹介】少量のデータからの特徴量抽出に優れ、解釈性の高いスパースモデリング技術を利用した産業向けエッジAIと医療向け診断・治療支援AIの開発・提供。



地球上の全ての人を 120歳までお連れする。 これをテクノロジーでどう実現するか。

きっかけは料理教室で10年ほど講師として働く妻との会話がきっかけでした。人間の健康の基本は食事である。このアイデアを元に管理栄養士のノウハウをAI化した食事指導サービスを立ち上げました。これがHACARUSの始まりです。「スパースモデリング」との出会いもまさにこの頃。少量のデータから特徴量抽出でき、解釈性に優れた同技術を機械学習に応用。働き手不足、健康寿命の延伸にAIを適用をすべく努力しています。

【PROFILE】 1976年生まれ カリフォルニア州立大学 コンピュータ・サイエンス学部卒業2014年 株式会社HACARUS 代表取締役CEO
【創業年】 2014年
ソフトウェア開発者を父に持ち、10歳でプログラミングを始める。1995年に18歳で単身渡米。帰国後、ソニー・コンピュータエンタテインメントでPlayStationの開発に従事。以後、数社のITベンチャーをCTOとして共同創業。2010年から活動拠点を京都に移し、京都が持つ大学の技術と知財、ライフサイエンス・モノづくりの経験と知見、優秀な日本人学生と留学生、よその真似をしない独自のビジネス価値観、といった強みを再発見する。
【座右の銘】 よそはよそ、うちのうち。

会社の特徴

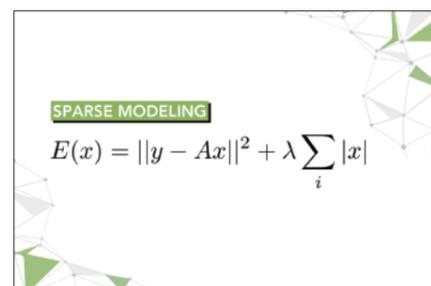
日本発の独自AIで世界の舞台で勝負。
産業・医療でのAIにブレークスルーを起こす。

HACARUSは京都を拠点に活動するAIベンチャーです。現在様々な分野で利用されるAI技術であるディープラーニングが抱える、AIの学習に膨大なデータが必要になる、AIの学習に大量の計算資源が必要になる、AIの意思決定の過程が人間には一切分からない、といった課題を克服するため、少量データで構築可能で解釈性に優れたスパースモデリング技術を応用した独自AIを開発しています。

事業・サービスの強み

学習と推論を同時に実行可能なエッジAI。
高い解釈性を持つ診断・治療支援AI。

ディープラーニングと比較して、HACARUSの独自AIは、データ量を100~1,000分の1、消費電力を1,000~2,000分の1に削減しながら、高い解釈性を実現します。これらの特性を利用して、学習・推論を同時に実行可能なエッジAIの開発、AIの意思決定の過程が解釈しやすい医療機関向け診断・治療支援AIの開発を行っています。独自AIは画像から時系列データまで対応し、特許出願も行っています。



▲スパースモデリング技術を応用した独自AI



▲学習・推論両対応のエッジ端末とモジュール

受賞ポイント

現在主流のディープラーニングとは一線を画す、少ないデータから法則性を発見する独自のAI技術を利用した産業向けエッジAIは、IoT時代において、実用化への期待が大きく、藤原氏が目指す健康寿命の延伸に向けた将来的な医療AIへの活用も含め成長性を評価。



Takuji Furukawa 古川 卓司

株式会社ビードットメディカル
代表取締役社長

中小機構
理事長賞

【会社所在地】〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町5-2-13

【事業紹介】放射線総合医学研究所で培った経験を基に粒子線がん治療装置に關する技術コンサルティング業務、さらに超小型ハイスループット陽子線がん治療装置の開発を行っている。



「放射線がん治療＝陽子線治療」の 時代を創る

切らずに治せ、QOLに優れた放射線がん治療において「X線治療」が最も一般的ですが、X線より線量の集中度が高く、腫瘍外のダメージが少ない「陽子線治療」が近年注目を集めています。しかし、その装置の大きさと高いコストから「良い治療なのに普及しない」という深刻な問題を抱えています。この問題を解決し、陽子線治療を多くの患者様に届けるべく、小型・低価格の陽子線がん治療装置を開発しています。

【PROFILE】 1978年生まれ 千葉大学大学院 博士(理学) 学生時代より、治療装置の開発に従事。重電メーカーとの協業で商品化した実績もあり、自身の設計した装置が現在も販売されている。放射線医学総合研究所でグループリーダーを担う一方、粒子線がん治療装置のさらなる普及を目指しビードットメディカルを設立し現在に至る。
【創業年】 2017年
「より良いものを作りたい」といった持ち前の向上心から、装置の完成度には一層こだわりの強い。専門は腫瘍形状に精度良く照射するスキャニング技術。従来困難とされてきた「呼吸同期スキャニング照射」の臨床運用に世界で初めて成功し、2012年、文部科学大臣賞を受賞した。失敗を恐れず上流から下流まで何でもやれ、の気骨あるオールラウンダー精神はビードットメディカルメンバー全員にも受け継がれ、チーム一丸となって現プロジェクトに取り組んでいる。
【座右の銘】 Mission, Passion, Commitment

会社の特徴

医療現場のわかる技術者集団による
誰でも受けられる高度がん医療の実現

ビードットメディカルは、がん治療の現場(病院)と医療機器開発、両方の経験を持つ異色の技術者たちを中心に構成されています。このメンバー構成が、ユーザー置き去りの技術志向にならない、大手メーカーにはない強みとなっています。「誰でも受けられる高度がん医療の実現」をミッションに掲げ、患者様、病院様、関わる人すべてに喜ばれるような装置、システムを提供できるよう事業に取り組んでいます。

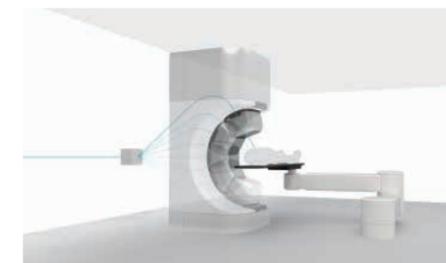
事業・サービスの強み

圧倒的にコンパクト
X線治療装置に置き換え可能な陽子線がん治療装置を世界へ

すべてのX線治療患者に陽子線治療を届けるためには、X線装置の置き換えで病院導入ができるよう、陽子線装置を飛躍的に小型・低価格化する必要があります。我々は、従来のように大型装置を回転させず、同様の照射が可能な革新的な方式を考案、現在開発中です。さらに、治療時間短縮を可能とするAIを使用したシステム開発にも取り組んでいます。これらにより、病院負担を下げつつ普及を促進し、患者様への治療機会を広げます。



▲チーム内コミュニケーションをつねに重視



▲巨大な回転機構を持たない非回転ガントリ

受賞ポイント

放医研発ベンチャーとして、古川氏が培った経験を活かした粒子線がん治療に係る技術開発やビジネスモデルを基に、実用化すれば、従来のX線がん治療装置に置き換わる可能性を有する取り組みは、社会へ与えるインパクトが非常に大きく、革新性がある点を評価。



Yoshimitsu Imanishi
今西 良光

株式会社Emotion Tech
代表取締役

JVA
審査委員会
特別賞

【会社所在地】〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-3 Nagatacho GRID 4F

【事業紹介】顧客体験(CX)を向上させるクラウドサービス「Emotion Tech」、従業員体験(EX)を向上させるクラウドサービス「Employee Tech」を提供。



【PROFILE】

1982年生まれ
早稲田大学大学院商学研究科(中退)
日立製作所、ファーストリテイリング(ユニクロ)

【創業年】2013年

CXやEXを改善する独自の解析手法を開発し特許を取得。CVG『経済産業大臣賞』、HRアワード2018『プロフェッショナル組織変革・開発部門 最優秀賞』、HRテクノロジー大賞2018『労務・福利厚生部門 優秀賞』等を受賞。2019年に書籍『CXM 実践的カスタマー・エクスペリエンス・マネジメント』を上梓。あらゆる企業で顧客体験(CX)や従業員体験(EX)に合った事業運営が当たり前になっている社会を創る。

【座右の銘】諸行無常

3K(気合い・根性・勘)で回っている
サービスの現場の非効率を
解消するべく起業!

私は前職、サービス業の店舗のマネジメント業務に従事していました。サービス業では、POSや流通システムなどのインフラ面はITを活用した効率化が図られていますが、人が深く介在する領域(サービス改善や従業員とのコミュニケーション等)は、サービス業の根幹であるにも関わらず、気合と根性と勘を抛り所にした感覚的な事業運営が行われています。このような非効率をテクノロジーの力で変えたいと思い起業しました。

会社の特徴

感情をテクノロジーでカタチに!
従業員体験と顧客体験の変革で、企業成長を支援

「イキイキと働く従業員が、感動的な顧客体験を生む。感動的な顧客体験が、持続的な企業成長を生む。」この事業ミッションを実現するべく、従業員エンゲージメント向上サービス「Employee Tech」及び顧客ロイヤルティ向上サービス「Emotion Tech」を開発しています。これまで大手企業を中心に400社以上で導入され、独自のデータベースや解析技術を構築しています。

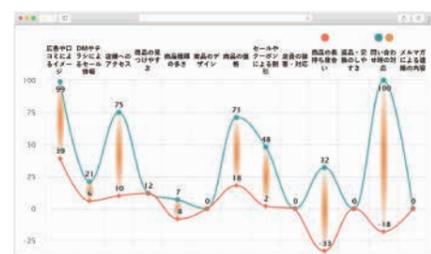
事業・サービスの強み

複数特許を取得したクラウドシステムで、
顧客や従業員の課題を明確に特定!

顧客は、商品単体の価値だけでなく、接客やブランドイメージなどから得られる様々な体験によって、継続的な商品の利用・購入を判断しています。Emotion Techは特許取得の独自の調査・分析システムにより、顧客にとって「最も重要な改善点」を明確に特定することが可能です。同様に、従業員向けサービスであるEmployee Techでは、従業員のモチベーション向上において、重要な職場課題を明確にします。



▲大手企業を中心に400社以上で導入



▲複数特許を取得したクラウドシステム

受賞ポイント

企業経営において、今後ますます重要性が高まる体験価値の分野において、多くの導入実績を有しており、今西氏が目指す顧客・従業員・企業の3方よしの好循環社会の創出は、サービス業をはじめとする生産性の向上にもつながる社会的意義の高い事業として評価。



Nozomu Tsunoda
角田 望

株式会社LegalForce
代表取締役CEO

JVA
審査委員会
特別賞

【会社所在地】〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-6 NTT日比谷ビル8階

【事業紹介】日本初の自然言語処理を用いたクラウド型契約書レビュー支援ソフトウェア「LegalForce」を提供。



【PROFILE】

1987年生まれ
2010年、京都大学法学部卒業
2012年、弁護士登録完了
2013年、森・濱田松本法律事務所入所
2017年3月、法律事務所ZeLo開設
2017年4月、株式会社LegalForce設立・代表取締役就任

【創業年】2017年

旧司法試験論文一位合格。趣味はキャンプと釣り。

【座右の銘】困難こそチャンス!

「日本の法律業界における非効率を見直してはならない」との使命感から
起業を決意

法律事務所の弁護士として勤務する中で、いまだに全てが「人手」で行われる法律業界の非効率を身をもって痛感しました。手作業を尊ぶ文化も相まって、日本の法務におけるテクノロジーの導入は、海外と比較して著しく遅れています。しかしそれを容認することは、日本の法務サービスの国際的な競争力を、日本の法律家自身が諦めるということです。これは日本の一弁護士として見過ごしてはならないという思いから起業に至りました。

会社の特徴

テクノロジーの力で
法務をもっと速く、スマートに。

弁護士とエンジニアが協働する独自の開発体制により、法務の実務と課題に即した新しいソリューションを提供しています。LegalForceが目指すのは、複雑化する法務業務に対応して成長を続ける法務プロフェッショナルと、共に進化し続けるパートナーであることです。京都大学との共同研究や最新の開発フレームワークの導入を通じ、技術面においても常に最新のテクノロジーを提供することに挑戦しています。

事業・サービスの強み

AIが契約書のリスクを瞬時に指摘!
法務のための契約書レビュー支援ソフトウェア

LegalForceは、これまで人手と時間をかけることでしか品質を高めることができなかった契約書レビュー業務を、品質を保ちながら加速させる全く新しいソリューションです。AIを活用した自動レビュー機能では、契約書に潜むリスクを瞬時に指摘し、修正文例まで提案します。契約書ファイルを自動でデータベース化する機能では、社内の知見の蓄積・活用を促進します。現在100社を超える企業に導入いただいています。



▲製品ビジョンは法務の「パートナー」



▲契約書のリスク箇所をピンポイントで指摘

受賞ポイント

正式版リリース後、わずかな期間で、大手企業を中心に多くのユーザーを確保する等ニッチなニーズを確実に捉えたビジネスモデルを確立。今後のグローバル展開を含めた成長戦略と、それを可能とする角田氏を中心とするチーム力を評価。



Haruyoshi Onuma

小沼 晴義

株式会社ジャフコ プリンシパル

ベンチャー
キャピタリスト
奨励賞

【PROFILE】

会津若松市出身。92年ジャフコに入社。宮城県・山形県で有力起業家に対しエクイティファイナンス・IPOの啓蒙活動に邁進。98年からは東京でインターネット黎明期のスタートアップ企業に多数出資、03年からVC部門の投資チームを率い、ブレインパッド、じげん、マネーフォワード等のIPOを支援。現在は投資活動の傍ら、キャピタリストの育成に注力。

【活動概要】

同地域同タイミングで活動しているVCの中で、①運用パフォーマンス②起業家からの信用・信頼③関わった企業の価値向上貢献、で最高の結果を出すことを目標に活動中。これまで「日本初の…」といったアドテック、SaaS、フィンテックへ投資し大成功を収める。一方でVC業界トップクラスのキャピタルロスに計上する等“経験”豊富。

【代表的な支援先企業】

マネーフォワード、Chatwork、ナレッジスイート、Finatextホールディングス、バリューコマース、バリュークリックジャパン、ロコンド 等



受賞ポイント 豊富な投資実績と、ベンチャーキャピタリストとしての長年の経験に裏打ちされた支援実績を高く評価。



Hiroyuki Misawa

三澤 宏之

みやこキャピタル株式会社 取締役 パートナー

ベンチャー
キャピタリスト
奨励賞

【PROFILE】

埼玉大学大学院修了、博士(理学)。6年間の生命科学分野の研究者(大学教員)生活を経て、2002年VC(JAIC子会社インキュベーター)に転職、以降一貫してバイオ・ライフサイエンス分野の投資、ファンド運営に携わる。2014年みやこキャピタルに参画し、現在に至る。

【活動概要】

日本発のサイエンス・テクノロジーで世界に普及する、画期的な製品を生み出す企業支援を継続していきます。また、成功例を多く出す事しかVC、スタートアップ業界が拡大する事は無いので、特にバイオ・ライフサイエンス分野での成功企業輩出に貢献し、業界に関連する人・資金を増やしたいと考えています。

【代表的な支援先企業】

JAIC時代：スリー・ディー・マトリックス 等 現在：ステムリム 等



受賞ポイント バイオ・ライフサイエンス系の強力なバックグラウンドを持つキャピタリストとしての活動を高く評価。



Hiroki Shimada

島田 寛基

LAPRAS株式会社 代表取締役

JVCA
特別奨励賞

【PROFILE】

1992年生まれ
University of Edinburgh 大学院 修士号
University of Edinburgh 大学院 卒業後、LAPRAS株式会社代表取締役就任
2016年創業。2017年11月に開催されたTech Crunch TOKYOにて、日本マイクロソフト賞、IBM Blue Hub 全力サポート賞及び Jooto AWARD BY PR Times を受賞。

【活動概要】

「あらゆる事象を必然化し、世の中のミスマッチをなくす」をミッションに掲げ、AIヘッドハンティングサービス「LAPRAS SCOUT」及びポートフォリオの自動作成サービス「LAPRAS」を運営しています。LAPRASでは、SNSなどの情報を基にしてWEB上に存在するすべての人を網羅したデータベースを作成しており、現在サービス提供しているHR領域に留まらず、今後は人のデータベースと機械学習技術を活用して他領域にも進出を予定しています。



受賞ポイント 革新的なテクノロジーを基に、ITエンジニアに続く対象職種の拡大や次なる市場への展開が期待される。

Japan Venture Awards 2020において、これまでの中小機構のベンチャー支援事業の推進に貢献して頂いた方々に感謝の意を表して、功労感謝状の贈呈を行いました。



Shuichi Matsuda

松田 修一 氏

早稲田大学 名誉教授

【PROFILE】

1966年公認会計士試験2次試験合格、1973年監査法人サンワ事務所(現在 監査法人トーマツ)入社、社員(パートナー)として中堅・ベンチャー企業のコンサルティングに従事。商学博士(早稲田大学)取得後、1986年早稲田大学助教授、1991年教授に就任。2012年早期退職、名誉教授。現在、ウエルインベストメント株式会社取締役会長、日本ニュービジネス協議会連合会副会長。元日本ベンチャー学会会長。現同学会顧問。経済産業省・財務省・文部科学省・総務省などの審議会・委員会などを歴任。

功績の内容

永年我が国におけるベンチャー企業の育成の重要性に対する国民理解を深めることに努められ、その卓越した学識経験を通じて多大なる貢献をされた。



Soichi Kariyazono

仮屋 蘭 聡一 氏

一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 名誉会長

【PROFILE】

慶應義塾大学法学部卒、米国ピッツバーグ大学MBA修了。株式会社三和総合研究所での経営戦略コンサルティングを経て、1996年、株式会社グロービスのベンチャーキャピタル事業設立に参画。1号ファンド、ファンドマネージャーを経て、1999年エイバックス・グロービス・パートナーズ設立よりパートナー就任。2006年マネジング・パートナー(現代表パートナー)就任、現在に至る。2015年7月より一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会会長、2019年7月より同協会名誉会長を務める。

功績の内容

我が国ベンチャーキャピタルの振興を通じて優れたベンチャー企業の創出に努められ、その豊富な知見と幅広いネットワークを通じて多大なる貢献をされた。



Chikahiro Terada

寺田 親弘 氏

Sansan株式会社 代表取締役社長/CEO

【PROFILE】

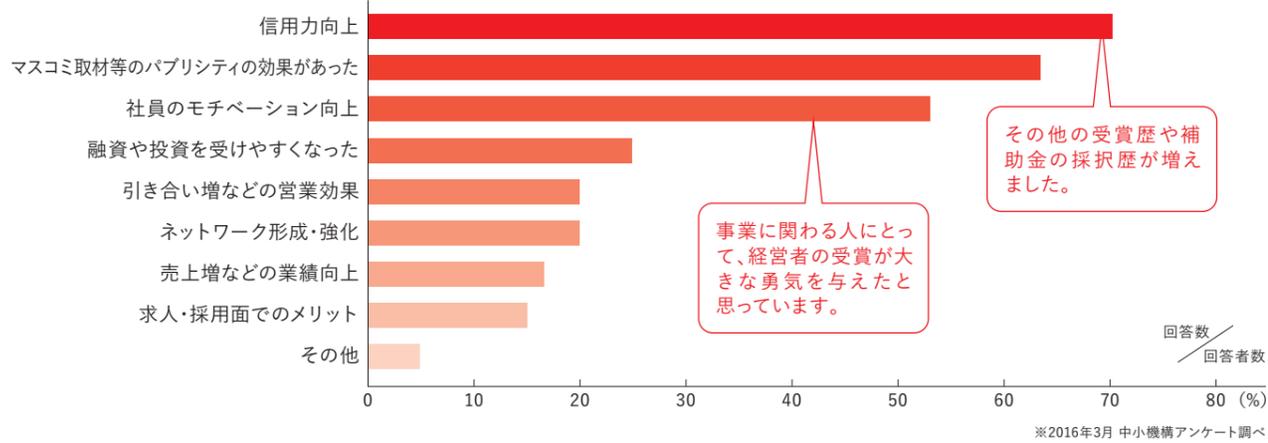
慶應義塾大学環境情報学部を卒業後、三井物産株式会社へ入社。情報産業部門に配属された後、米国・シリコンバレーでベンチャー企業の日本向けビジネス展開支援に従事する。帰国後は、社内ベンチャーとしてデータベースソフトウェアの輸入販売を行う部門を立ち上げる。その後、関連会社に出向し、経営企画・管理業務を担当。2007年、Sansan株式会社を創業する。

功績の内容

イノベーションを実現する企業の創出に向けた多大な努力を尽くされ、次代のモデルとなる事業を提示することにより多大なる貢献をされた。

JVA受賞は、自社の取り組みを広くPRできる機会としても活かされています。受賞をきっかけにメディアに取り上げられるなどにより、販売先や支援先との新たなネットワーク形成にも繋がっています。また、受賞することで社員のモチベーション向上にも寄与しています。

▶ 受賞後の効果



中小機構・JVAピッチ

JVA受賞後、過去受賞者のピッチイベントを開催し、自社事業のPR機会を提供しています。日本最大級のベンチャー企業・大手企業とのマッチングイベント「第7回イノベーションリーダーズサミット (ILS)」内で開催した「中小機構・JVAピッチ」ではこれまでのJVA受賞者や、中小機構インキュベーション施設入居者等の14名が登壇しました。

中小機構・JVAピッチ

in 第7回イノベーションリーダーズサミット

2019.10.29 Tue. 虎ノ門ヒルズフォーラム

第1部 〈バイオ・食・ヘルスケア〉

株式会社サイフェーズ	秋枝 静香 氏	JVA2019 中小機構理事長賞
株式会社ラテラ	荒磯 慎也 氏	
株式会社フレンパシー	播 太樹 氏	
株式会社ジースポート	黒田 篤 氏	

第2部 〈材料・ナノテクノロジー・機械〉

株式会社ケミカルゲート	山田 展也 氏
浜松ナノテクノロジー株式会社	川上 友則 氏
SyncMOF株式会社	島岡 潤一 氏
株式会社オプトメカトロ	久米 英浩 氏
MI-6株式会社	木寄 基博 氏

第3部 〈HR・SaaS・IoT〉

株式会社No Limit	瀬戸 敦史 氏
株式会社インターパーク	高井 伸 氏
株式会社ワンネイティブ	木村 沙那 ダイアナ 氏
IoTBASE株式会社	澤和 寛昌 氏
株式会社RevComm	會田 武史 氏



JVA事業の主旨にご賛同いただきました協力機関を紹介します。



有限責任 あずさ監査法人

KPMG/あずさ監査法人は、監査やアドバイザリーなどの専門性の高いサービスの提供を通じて、経済社会に信頼をもたらす、企業や社会の変革に向けた取組みを支援しています。IPO、財務デューデリジェンス等の分野においては、豊富な経験を持つ専門家を配置し、海外ネットワークを含めた情報・知識の蓄積を行うとともに、一元的なサービスを提供しています。さらに、新しいテクノロジーをキーとしたイノベーションエコシステムの構築に、皆様とともに取り組んでいきます。



EY新日本有限責任監査法人

EY新日本有限責任監査法人は、監査および保証業務、アドバイザリーサービス、税務などの分野における世界的なリーダーであるEYのメンバーファームです。全国に拠点を持つ日本最大級の監査法人であり、監査および保証業務はもとより、各種アドバイザリー分野においてクライアントの課題解決と成長を支援しています。これらのサービスを通じて資本市場および社会の健全な発展に貢献することで、より良い社会の構築を目指します。



DRIVE (運営: NPO法人ETIC.)

未来の兆しを示すアイデアやトレンド、起業家インタビューなど未来を創る動きを後押しするコンテンツを発信。スタートアップやソーシャルセクター、また地域の魅力的な企業でのチャレンジングな求人情報やインターン募集も充実。



アントレサロン (運営: 銀座セカンドライフ株式会社)

銀座セカンドライフは、創業から10年、これまで延べ7,000人の方の起業を支援してきました。当社は、お客様が“セカンドライフ”で手掛ける事業がスムーズに軌道に乗れるよう、無料起業相談・事務サポート、毎月3, 4回開催している異業種交流会でのビジネスマッチング、さらに、首都圏を中心にレンタルオフィス「アントレサロン」運営をしています。特にアントレサロンは、9拠点13店舗あり、使い勝手の良さから、会員は現在約7,000社を超えています。これからも、一人ひとりのお客様に、信頼され、親しまれる会社を目指しています。



月刊事業構想

月刊事業構想は、事業構想大学院大学出版部が発行する雑誌&オンラインメディア。新事業開発、イノベーション、地方創生を主テーマとしています。地方自治体首長と幹部に圧倒的な関読率があるほか、企業の新規事業開発責任者が読者の過半を占めます。特に、企業トップ、起業家、政治家、官僚といったキーパーソンの構想と具体的事例に焦点を当てた記事が充実しています。また、デザイナー、アスリート、芸術家、クリエイターなど異分野の構想家もとりあげ、多様な視点を提供しています。イノベーションへのアイデア、アライアンス・パートナーの開発などの情報源となっています。



INNOVATION LEADERS SUMMIT (運営: 株式会社プロジェクトニッポン)

大手企業のアセットとスタートアップのアイデアやテクノロジーをマッチングし、グローバルイノベーションを生み出すことを目的に経済産業省後援のもと発足。2019年10月に開催した第7回ILSにおいて、メインの事業提携マッチングプログラム「パワーマッチング」は、国内外の主力VCなどで構成する100人のILSアドバイザリーボードが推薦するスタートアップ582社と大手企業115社(166部署)が参加、3日間で2434件の商談が行われた。アジア最大級のオープンイノベーションカンファレンス。



日刊工業新聞社

日本のモノづくりを見つめ、伝え続けて一世紀。創業の理念「工業立国」「技術立国」を胸に一貫して日本の産業界とともに歩み、日本の科学技術の発展や産業競争力の強化、中小企業振興に努めてまいりました。新聞を核に産業総合情報機関としての機能をさらに高め、創業・ベンチャー促進をはじめ、活力と創造力あふれる次世代の産業社会づくりに貢献していきます。



日本スタートアップ支援協会

1. 50名の上場企業の経営者がメンタリングで経営課題の解決と企業価値の最大化を実現します。
2. 協会顧問のエンジェル、VC、事業会社、銀行からの最短最速での資金調達を実現させます。
3. スポンサーや顧問企業からトップラインにつながる上場企業を随時紹介します。



特定非営利活動法人インデペンデンツクラブ

- “一人でも多くの人と一緒に、1社でも多くの公開会社を育てる”
- 1.ベンチャー企業支援育成のための各種イベント運営・企画
— 起業家による「事業計画発表会」の運営企画
 - 2.ベンチャー企業支援育成のための広報事業
 - 3.ベンチャー企業支援育成に関する各種調査・研究・情報提供事業
 - 4.その他目的を達成するために必要な事業

中小機構は、経済産業省所管の中小企業政策全般にわたる総合的な実施機関として、成長ステージに合わせた多様な支援で中小企業の成長を応援しています。

ファンド出資で
資金調達を支援

中小機構は、ベンチャー・中小企業を対象に投資を行うファンドに出資者の立場で資金提供することにより、様々なステージの企業に資金調達の機会を提供しています。

事業展開を加速させる、
インキュベーション施設
アクセラレーション事業「FASTAR」

全国29か所で、実験・研究開発にも対応した「インキュベーション施設」を展開し、常駐するインキュベーションマネージャーが、新事業の事業化をサポートします。また、資金調達や事業提携等に向けたアクセラレーター支援(成長加速化支援)を実施しています。

ネットで、効果的な
販路拡大をサポート

大手企業とのマッチングサイト「J-GoodTech」、中小企業向け公的調達のサポートサイト「ここから調達」、海外進出時のベストパートナーとのマッチング「SWBS」、無料EC講座「ebiz」など、海外展開やeコマースをつかった販路開拓を後押しします。

起業、創業時の
ビジネス創発をサポート

創業に関する様々なイベントやワークショップを提供する東京駅最寄りの交流スペース「TIP*S」、中小企業大学校東京校内(東大和市)に設けた創業支援施設「BusiNest」などを通じて新ビジネスの創発をサポートします。

「いつか」に備えた
共済制度

小規模事業者や個人事業主が使える廃業時の退職金制度「小規模企業共済」と、取引先の倒産時に備えた「経営セーフティ共済」を運営しています。かしく節税しながら「いつか」にそなえた準備ができる制度です。

ベンチャー、中小企業を
サポートする豊富なメニュー

起業事例や補助金の情報提供サイト「J-Net21」、電話・メール・対面でできる無料の経営相談、全国で経営上のあらゆる相談に対応する「よろず支援拠点」など、ベンチャー・中小企業をサポートするためのさまざまなメニューを展開しています。

 中小企業庁 中小企業庁	 国立研究開発法人 科学技術振興機構 国立研究開発法人科学技術振興機構	 産総研 国立研究開発法人産業技術総合研究所	 NEDO 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
 IPA Better Life with IT 独立行政法人情報処理推進機構	 JFC 日本政策金融公庫 株式会社日本政策金融公庫	 DBJ 日本政策投資銀行 株式会社日本政策投資銀行	 人を思う。未来を思う。 商工中金 株式会社商工組合中央金庫
 日本商工会議所 The Japan Chamber of Commerce and Industry 日本商工会議所	 全国商工会連合会 全国商工会連合会	 全国中小企業団体中央会 全国中小企業団体中央会	 VEC Venture Enterprise Center 一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター
 JNB 公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会	 全国イノベーション推進機関ネットワーク イノベーションネット 全国イノベーション推進機関ネットワーク	 福岡市 福岡市	 ETIC NPO法人ETIC.
 全国地方新聞社連合会 全国地方新聞社連合会	 NIKKEI 日本経済新聞社	 JASVE 日本ベンチャー学会 日本ベンチャー学会	 JVCA Japan Venture Capital Association 一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会

 あずさ監査法人 有限責任あずさ監査法人	 Building a better working world EY新日本有限責任監査法人	 DRIVE(運営:NPO法人ETIC.) 銀座セカンドライフ株式会社	 アントレサロン 銀座セカンドライフ株式会社
 月刊事業構想 月刊事業構想	 INNOVATION LEADERS SUMMIT INNOVATION LEADERS SUMMIT (運営:株式会社プロジェクトニッポン)	 日刊工業新聞社 日刊工業新聞社	 ISSA 一般社団法人 日本スタートアップ支援協会 一般社団法人日本スタートアップ支援協会
 一人でも多くの人と一緒に、1社でも多くの公開会社を育てる 特定非営利活動法人インデペンデンツクラブ			

